

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	十分達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 附属幼稚園

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	教育課程(保育内容)事業	【「自然とのかかわり」「人とのつながり」の直接体験とおしたグローバル人材育成への寄与】 ESDの観点を取り入れ、グローバル人材に求められる資質・能力の基礎を育成する教育課程の開発を進める。 ①自然とのふれあいによる豊かな直接体験や感動体験ができるよう、環境整備や保育内容の充実を努める。 ②グローバルデーでの異国の文化や言葉に触れる体験から、国際理解の素養を養う教育の実現に努める。 ③ユネスコスクールの方針や活動を理解する。	ESDの観点を取り入れた保育の実施のために保育指導案の作成及びエピソードを記録する。そのためにドキュメンテーションやポートフォリオの活用を進める。	(指標) 園内研究日、月案検討日、職員会議での検討を行う。保育の記録の評価(保育者、保護者)を行う。(判断基準) ESDの観点を取り入れた保育指導案作成と評価、保育記録の評価	・ESDの観点を視野に入れながらエピソード記録をとっていき、保育カンファレンスを行うことができた。カンファレンスは計画通り100%(9回/9回)であった。 ・ドキュメンテーションやポートフォリオを作成し、子ども、保護者、保育者が共に育ちを確認できるものになった(アンケートから)。	A	・ESDの観点を取り入れた保育を目的としていることが非常に重要なことであり、カンファレンス等を行うことにより、保育への正しい評価が可能となり、より良いESDの観点を取り入れた保育が実施されたことを高く評価します。 ・ポートフォリオは保護者子どももコメントを書いたもので、いい記録になった。 ・ドキュメンテーションも子どもが写っているときはそれを見て子ども自身が更に詳しく遊びの様子を教えてくれることもあり、興味深かった。	A	保育の振り返りやカンファレンスを通して、エピソード記録を分析検討し、日々の保育の中でESDの観点から教育課程の開発を進めていく。
			「森の日」の開催をする。日常的に自然とふれあうことの楽しさを伝える。また自然に対して人を介したつながりの重要性を知る。	(指標) 「森の日」の実施が子どもの活動にとって効果的である。(判断基準) 子どもの姿や東広島市のアクションプラン委託事業調査を通して調査を行う。	・「森の達人」の助言を受け、子どもたちとともに自然と触れ合い、新しい発見や遊びを取り入れて、楽しむことができた。 ・「森の日」の実施日は100%であった(25回/25回)。	A	・「森の日」の実施によって、本園の特徴である豊かな自然が子どもにも果たす役割や意義を、子どもや保護者に伝えることができただけでなく、保育者自身もさらに自覚できたことを評価します。 ・子どもにとっても貴重な体験なので続けてほしい。 ・親も参観日に「森の日」を一緒に過ごさせていただき新しい発見、楽しい遊びを行うことができた。	A	森の中で遊ぶことで、諸能力の進展が認められたが、今後は「人とのつながり」での観点から、活動を見直していく予定である。
			多文化理解に繋がる「グローバルデー」を定期的実施する。	(指標) グローバルデーの実施により多文化理解が深まる。(判断基準) 子どもの姿を通しての、保護者の80%以上の理解があるかどうか。	GDで異文化にふれあう機会を設けることができた。保護者の85%が子どもの姿から意義を感じていた。今後は更に内容が通常の保育に自然と馴染むよう、内容の打合せを丁寧に行う。	B	・広島大学との繋がりがから、様々な国からの留学生と交流することができ、他園では体験できないような多文化理解の場を子どもに提供すると非常に望ましいと感じます。これまでのように英語のみならず、他の言語も取り入れていくことにより、さらに効果が上がると思います。 ・様々な国の言語文化に触れることができると、もっと楽しく幅広い価値観に繋がると思う。	B	グローバルデーの活動も定着し、園児の発言も多岐にわたってきているので今後、これまでのように英語のみならず、他の言語も取り入れていくことにより、さらに活動を広げようとして、さらには活動に様々な国の言語文化に触れることができるようにし、もっと楽しく幅広い価値観に繋げていく。
教育研究等	研究開発事業	【研究校としての研究実施・推進と公開】	ユネスコスクールの理念を活かした保育実践を行い、ユネスコスクールのリンクを通じて世界に発信する。ひろしま自然保育認証園としての活動のために認証園を対象とした活動を積極的に実施する。	(指標) ユネスコスクールにおいて幼稚園の実践をHPで公開する。ひろしま自然保育認証園としての活動を実施する。(判断基準) ユネスコスクールの公開ひろしま自然保育認証園の研究助成制度を利用したかどうか。	ユネスコスクールとしての活動報告をHPで周知予定である。また、ひろしま自然保育認証園として「森の日」を計画通り実施し、研究助成制度の利用も実施した。ESDの理念を継承した保育を行うことができていくが、今後さらに研鑽していく。	B	ユネスコスクールとしての自覚をもとに、ひろしま自然保育認証園として、研究助成制度を利用したことを評価します。ユネスコスクールとしての実践の特徴を、ぜひHPで公開していただきたいです。	A	今後も継続してユネスコスクールとしての自覚をもとに、ひろしま自然保育認証園として、研究助成制度を利用して保育実践を実施する。ユネスコスクールとしての実践の特徴を、HPなどで公開していく。
			本年度の研究課題に沿った研究の取組による成果と課題のまとめ、次年度へ広げる。	(指標) 幼児教育研究会を実施し、本園の研究実践のあり方を知ってもらう。(判断基準) 研究会の参加者数、研究会参加の振り返り、コメントなどを参考にする。	研究会は対面での参加人数を限定して実施した。対面37名、オンライン44名の参加があった。オンラインも用いたハイブリッドな形の研究会を行うことで、より多くの方に本園の研究を公開することが可能になった。対面での参加者からは、実際の雰囲気を感じることが学びになったことや、オンラインの参加者からは、現場で子どもの姿を見ることはできないが、研究テーマに沿った学びができたことがよかったなどの感想があった。今後もハイブリッドで広く公開していくことを検討する。	A	・コロナ禍の状況において、対面とオンラインによるハイブリッド研究会を行ったことにより、今後の研究会としての在り方を提示できたことを評価します。本園の研究会は、非常に重要な意義があり、これまでも多数の方から参加が求められている中で、他県から参加が難しい保育者の方にはたくさんいると思いますので、コロナ禍が終息した後もオンラインを含めたハイブリッド研究会を開催していただきたいと思えます。 ・保護者にもぜひ研究内容を知ってもらい、研究機関だということをもっと理解してもらったほうがいい。	A	オンラインでの研究発表と一部公開保育をすることができた。令和4年度は新型コロナウイルスの拡大の状況を踏まえて、可能な限り従前通りの研究会の開催を準備していく。そのために全県全国への研究会等の呼びかけを積極的に進めていく。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
		【科学研究費助成事業への応募 をとおりて教員の研究推進意欲 向上】	科学研究費助成事業(奨励 研究)に応募する。科研獲得 のために園長による助言を 実施する。	(指標) 応募の必須化と獲得数 (判断基準) 所属教員1名以上の応募、また獲得 数/応募数を上げる	全教員が応募したが獲得 できなかった。次年度 でも積極的にチャレンジ する。	B	・様々なことに取り組み られている中で、科研費 への応募に全員がチャ レンジされたことを評価 します。本園における 研究は最先端のもので すので、科研の書き方 を学んでいただければ、採用される可能性 は高くなると思います。	B	教員の応募は毎年確実 に行っている。採択につ いては園長が主体的に 書き方について指導し、 獲得を確実にしていく。
		【学会発表等をとおりて教員の 研究推進意欲向上】	幼児教育、保育、または保育 実践にかかわる学会、研究 会等での発表を積極的に進 行。	(指標) 個人またはグループの研究テ ーマに関する研究成果発表を行う。 (判断基準) 所属教員1名以上の、学会等 における発表	個々の教員が保育学 会、乳幼児保育学会で の発表を行った。また、 学部・附属共同研究に 積極的に応募し、幼児 教育界において懸念事 項となっていたループ リックのふさわしいあり 方を明らかにすることが できた。	A	・学部・附属共同研究 を行うことにより、大 学の教員から色々と学 ぶことができると思いま す。また、学会発表は、 本園の価値を全国に 大きくアピールすることに 繋がりますので、今 後も引き続き研究発表 をしていただきたいで す。	A	オンライン開催の学会に もできるだけ参加し、グ ループ発表だけでなく個 人研究の発表をする予定 である。
社会連 携・社 会貢 献活 動等	社会連携・貢献、子育て支 援事業	【地域との連携】	地域の小学校との連携を進 める。	(指標) 地域の三ツ城小学校、御園宇 幼稚園と連携し、協議・交流の実 施を行う。 卒園児が在籍する小学校を訪問 し、就学後の様子を聞き取るとと に幼小連携についての意識啓蒙 を行う。 (判断基準) 年長園児の小学校に対する意識 の高まりや、年長園児の保護者の 小学校就学における不安の軽減 などをエピソードやアンケートから 把握する。	園長が卒園児の小学校 14校全てを訪問し卒園 児の修学状況を聞き取 り、今後の小学校への 連携と附属幼稚園の教 育内容について説明を 行った。 年長児においては三ツ 城小学校連携を計画し たが、コロナのため実 施できなかった。 長期研修生教員から保 護者と園児に就学に向 けての話ができ、それ ぞれの不安の軽減や期 待につながった。保護 者のアンケートから満 足度は100%であった。	A	・園長先生が全ての小 学校を訪問され、連携 に関して説明を行われ たことを高く評価しま す。幼児教育の専門家 である園長先生だから こそ、幼小連携の重要 性や必要条件等を小 学校の校長先生にお 伝えできたと思います。 コロナ禍の中で、年長 児が小学校へ訪問す ることは難しいと思 いますが、せめてオン ラインで、小学校の先 生からお話を聞いた り、小学生の活動の 様子を見たりするこ とによって、小学校 への興味・関心を 導き出し、小学生と なるための意識を高 めていただけると思 います。 ・今年度は長研の先 生が保護者や子ども に話をしてくれたこと が心強かった。早い 段階でぼちぼち話 をしてもいいかもし れません。 ・諸先生方も小 学校訪問にはどう でしょうか。	A	コロナ禍のため、子ども 同士の実際の交流は 実施することができ なかつた。令和4年度 は状況を見ながら、 小学校側との交流を 探っていく。令和3年 度は実施できなかった 近隣の三ツ城小 学校と年長児との 交流を計画している。 令和4年度末に本園 卒業予定の園児が 就学する小学校は 13校あるので、それ らの小学校との連 携・情報交換を行 いたいと考えている。
		ひがし広島幼児保育研究会 の開催		(指標) 年間3回の研究会の企画と開催 を行う。 (判断基準) 研究会の実施、及び研究会への 参加者のアンケート調査による 80%以上の肯定的意見があるか どうか。	自然保育に関する研 修会を事前アンケート をもとにオンラインで 実施した(86名)。そ のため、講師の方々 に聞きたい回答を 聞くことができた ことが深い学びに つながった。また、 研修内容については 参加者のアンケート から100%の肯定的 評価を得た。来年度 から本会は発展的解 消をするため、東 広島市や幼児教育 研究施設に研修を 移していく。	A	・東広島市において、 複数の園の参加によ る、ひがし広島幼 児保育研究会が 開催されること はとも意義がある と思います。本園 は、その中の中心 園として、今後 も重要な役割を 果たしていただ きたいです。 ・有意義な研 究会になった と感じた。	A	広島大学附属幼 児教育研究施設 と連携しながら、 令和4年度も研 究会や講演会 を実施してい く。
		【社会貢献】	国内外の教育関係参観者に 保育・施設の公開 (動画も含む)	(指標) 国内外の保育関係サイトに、 動画などを提供する。また 教育関係者の参観希望者に 保育・施設の公開(アンケート) を実施する。 (判断基準) 参観者の感想や意見が肯定的 であるかどうか。	5月に本園の1日の様子 を動画にしたビデオを 作成し、それを元に県 の研修などに使用し た。国内からの参観者 も蔓延防止期間以外 は100%受け入れた(11 人/11人)。また、JICA において外国の方に園 の保育について講 義を行った(2時間)。自然 の中で子どもたちが 自分たちの生活を自 らで作っていく様子 に本園の幼児教育の 在り方を肯定的に 捉える意見が多か ったので今後も 要請があれば続 けていく。	・国内外の教育関係 者に、様々な情報 を提供することを 高く評価しま す。このことは、 他園にはできな いことであり、 本園の果たす 大きな役割の 1つだと思いま す。 ・外国の方が直 接来られること で子どもたちに も良い刺激が 与えられると 思う。	A	・国内外の教育関係 者に、様々な情報 を提供すること を高く評価しま す。このことは、 他園にはできな いことであり、 本園の果たす 大きな役割の 1つだと思いま す。 ・外国の方が直 接来られること で子どもたちに も良い刺激が 与えられると 思う。	A
		本学学生や広島県の研修生 のインターンシップの受け 入れを積極的に進める。	(指標) 大学院生、大学生の授業や演 習での園観察を積極的に 受け入れる。広島県の小 学校教諭研修生の受け 入れを行う。 (判断基準) 幼稚園教育に対する学生 の肯定的評価がある。研 修生の受け入れと事後 の感想により幼稚園 教育の理解度が深ま ったかどうか。	学部の教育実習や大 学院生の研究、大学 の授業などへの協 力は申し出を全て 受け入れ実施した (14/14)。県から の長期研修生を受け 入れ、互いに学び になるよう努め、 それぞれの教員 においても幼児 観が変ったとい う感想があり、 幼児教育への 理解が深ま ったと考えら れる。	・様々な社会貢 献ができてい ることを高く 評価しま す。 教育実習生や大 学院生への貢 献だけでなく、 その人たちの ように指導・支 援したら良い かを保育者に も知っていただ きたいです。 特に、小学校 教諭研修生か ら、小学校教 育の特徴、意 義等も学ん でいただき、 幼小連携に 必要なこと を深く理解 していただ きたいです。	A	・様々な社会貢 献ができてい ることを高く 評価しま す。 教育実習生や大 学院生への貢 献だけでなく、 その人たちの ように指導・支 援したら良い かを保育者に も知っていただ きたいです。 特に、小学校 教諭研修生か ら、小学校教 育の特徴、意 義等も学ん でいただき、 幼小連携に 必要なこと を深く理解 していただ きたいです。	A	大学生のインター ンシップ活動、 教養ゼミでの 園観察を受け 入れる予定 である。また 大学院の幼 児教育演習、 幼児心理学 観察演習など で積極的に 学生の園 観察を引き 受けてい く。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
(社会連携・ 社会貢献活動等)	(社会連携・貢献、子育て 支援事業)	【子育て支援】	保護者のための子育て支援 講座・親子体験講座の開催	(指標) 講座を通しての子育てに関する 参加者の感想を収集する。 (判断基準) アンケート調査で肯定的意見が 80%以上あるかどうか。	親子体験講座は昨年に 引き続き島を見る会のみ の実施となった。それ でも参加の保護者から は、親子で自然活動が できたことに前向きな意 見が多かった。今後は 子育てサロンと合わせ ての子育て支援を考え ていきたい。	B	・コロナ禍の状況にお いて、予定されている 全ての講座の開催が 難しい中で、親子体験 講座を実施されたこと を評価します。参加さ れた保護者の方にとっ ても貴重な体験 だっただけでなく、講 座の果たす役割を保育 者の方々がさらに認識 されたと思います。 ・親子で体験をもう少し 増やしてもいいと思っ た。 ・子育てサロンは毎回 同じ人が参加している ので入りにくいと言う声 もあった。	B	保護者のための子育て支 援として、集まることか できるか状況を見据えなが ら、親子体験講座と子育て サロンを開催していく。 なお、子育てサロンにつ いては、新規の方が入り やすい工夫をしていき、 保護者の安心の場となる ようにする。
			誕生児保護者を対象に毎月 「幼稚園・子育て仲間」の実 施および子育てサロンの開 設	(指標) 誕生会への参加者の参加と誕生 会や子育てサロンを通しての子育 てへの肯定的な思いや気づきが 表出される。 (判断基準) ①誕生児保護者参加呼びかけに 対して参加者100%あること ②参加者の肯定的感想80%以上 あるかどうか。	誕生会への誕生児保 護者の参加は100%で あった(園児の事情によ る不参加は含めない)。 また、子育てサロンは蔓 延防止対策などで回数 は12回実施であった。 参加者は延べ30人で あり、参加者の100%が 肯定的評価であった。 子育てサロンに参加し なかった方の60%は参 加意欲はあるが都合が 悪く参加できなかったた め、今後は参加しやす い方法を考えて実施し ていく。	A	・幼稚園において、子 育て支援をどのように 行うかは重要なことで あり、本園での取り組 みは良い発想だと思い ます。コロナ禍の中で、 幼稚園と保護者の関係 がとても良好であるこ とを評価します。 ・現代の親子関係は 様々であるように思 う。しかし、家の中が分 かれないのが現状。そ の改善手段として、人 がつながる工夫が必要 。	A	子育て支援の一つとし て、引き続き、誕生児保 護者を対象に誕生会へ の参加・参観を行う。そ の際、子育てについての語 らいを行い、それをきっ かけに子育て支援につな げたい。
			園庭開放により、地域の住 民、子育て世帯への豊かな 自然環境で過ごせる機会 の提供	(指標) 園庭開放の実施(年3回程度) (判断基準) 園庭開放実施の実績(参加者 数、参加者の意識調査)	園庭開放は年3回に加 え、コロナ対策として園 の説明も合わせて個別 にも8回行った。参加者 は延べ48家族だった。 参加者からは予想以上 に広い園庭を喜んでい ただき、子どもたちを遊 ばせる姿が見られた。	予定していた3回の園 庭開放に加え、個別説 明会も8回行ったこと を評価します。特に、延 べ48家族の参加者が いたことは良い結果で した。本園の良さを知 り、入園を希望する家 族が増加するよう、こ の取り組みを継続して 行っていただきたいで す。 ・園庭開放をもっとア ピールするといいい。年 齢制限も0歳～として もいいと思う。	A	園庭開放、入園希望者見 学会の回数を増やし、園 の環境に触れることを 通じて、自然環境で過 ごせる機会を提供して いく。	
学校経営・ 安全管理等	学校運営・改善事業	【幼稚園運営にかかる課題につ いての整理、検討、対応】	学校評議員、学校関係者評 価委員による評価	(指標) 学校評議員会、学校関係者評 価委員会の開催 (判断基準) 各委員の指摘、評価により、園 の活動の理解がなされること。	コロナ禍でありながら、 オンラインも併用して年 に2回開催することが できた。貴重な意見を いただくことができた。 園の活動への理解が進 んだと考えられる。	A	会議開催に際し、オン ラインも併用していただ いたことに感謝いた します。また、学校評 議員会や学校関係者評 価委員会のメンバーか らの意見をもとに、色 々な改善策を考えられ たことを高く評価いた します。	A	コロナ禍での状況も考 慮し、これまでの指導助 言を具体化するために早 めに改善を行う。
			内部評価等の実施	(指標) 保育について、または業務につ いて教職員の気づき、意見が出 やすい職場環境の構築を目指す (判断基準) 教職員が気がねなく意見の共有 がおこなわれているかどうか。	保育カンファレンスだ けでなく、普段の会話 の中で子どもについて の会話が始まり、幼児 理解が深まるきっかけ になるよう、互いに思 いを出しやすいう環 境であったという肯定 的評価であった。(教 員の内部評価)	A	教職員間のコミュニ ケーションが高まって いることは、とても 評価します。保育の 実践や子どもの姿を 共有、教職員同士の 支援やお互いの存在 を認め合うことは、 園経営にとって非 常に重要です。	A	コロナ禍での保育の 新しいアイデアが生ま れ、保育の可能性が 広がったので、それ を教職員で共有し ていく。 ・教職員間で情報を 共有し、協働的に 対応していく。
			保護者による評価等	(指標) 幼稚園教育に関する保護者ア ンケートの実施。毎月の木いち ご運営会議での保護者の意見の 集約を行う。 (判断基準) 保護者の意見を把握でき、対 応、改善等が概ねできているか どうか。	保護者アンケートは 88%の回答率であり ながら、本園の教育 に対し98%の保護 者が肯定的評価 であった。また自 由記述では肯定的な 意見が23、改善 への意見が11 であった。今後は 両意見を大事にし保 護者ともより連携 をしながら運営 をしていく。 コロナ禍のため 木いちご運営 会議は紙面にす ることが多かつ たが、木いちご 会長と連携を とりながら、保 護者の意見の 把握に努めた。	A	保護者アンケートを 積極的に 行うことは 良いこと です。また、 本園に 対する保 護者の評 価が高い こともす ばらしい です。他 園では見 られない くらい、 本園と保 護者との 連携が深 いこと を高く評 価します。	A	保護者などの意見に基 づき、オンラインやオン デマンドを駆使し、さら なる連携をめざす。そ のた めの情 報イン フラ(保 護者が スマ ート フォ ンから アクセ スす るクラ ウド システ ム)が 十分で ないた め、施 設整 備の改 善も求 めてい く。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
(学校経営・安全管理等)	(学校運営・改善事業)	【幼稚園運営にかかる課題についての整理、検討、対応】	危機管理・安全管理意識の向上と関係マニュアルの整備	(指標) ①避難等訓練の実施 ②アレルギー疾患の子どもへの対応、意識の共有 ③緊急連絡メールの整備 ④学校保健委員会の開催 ⑤全教員によるAED使用訓練 ⑥新型コロナウイルス感染拡大防止の対策 (判断基準) 各訓練の実施、マニュアルの改善、緊急連絡網の確立、学校保健委員会の開催、職員による安全点検の実施、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施	まん延防止重点措置が適用されたことや休園したこともあり、避難訓練の実施ができていないものもある(4回/5回)が、内容(火事、地震、不審者)は網羅できている。新型コロナウイルス感染対応についてはマニュアルを作成し、必要に応じて改善(修正)している。今年は、1月24日から28日まで、休園を余儀なくされたがコロナウイルスについては今後も状況を見ながら素早い判断に努めていく。	A	・様々な危機管理や安全管理が行われていることを評価します。コロナウイルス感染対策に関しては、これまでの経験をもとに、さらに改善して行っていく。コロナ対策について、県の基準ではなく広島の基準を元に対応していることを新しい保護者に教えていただければと思います。	A	各訓練は計画的に実施し、マニュアルの改善を行う。緊急連絡網も十分機能するように確認をする。学校保健委員会を開催し、コロナ対応も含め、安全・安心した園運営について助言を頂く。毎月職員で安全点検を実施し、園環境の保全に努める。アレルギー疾患などの配慮を要する子どもの対応を共有し、安全・迅速に対応できるようにする。コロナウイルス感染拡大防止対策として日々園での消毒を行う。子どもの健康な育ちを考えた過剰にならないように気を付ける。
			教職員の適正な労働環境の見直し・改善	(指標) 適正な勤務時間の厳守、個人業績評価の記入、面談を適宜行う。(判断基準) 勤務時間の記録確認、個人業績評価の面談で確認する。	教職員の健康管理及び適正な労働環境を維持するため、1週間の内1日、定時で帰る日を全員に設けたが、改善が見られなかったため、期間の途中から時間外労働を月に30時間(1日に1.5時間)までと決めて実施した(実施率84%)。全体で意識できるようになった。また、特定の職員に大きな負担が生じることがないように配慮することで適正な労働環境になるよう努めている。保育後、非常勤との振り返りに時間を要することがあるので、非常勤の勤務時間内に振り返りを組み込むなどの工夫をしていく。	B	・国立大学の附属幼稚園は、大学との連携、最先端の研究への取り組み、研究発表・研究報告書等の実施、県内外の教育関係者への貢献等、やらなければならないことが多くあり、その状況の中で適正な勤務時間厳守は非常に難しいです。本園では色々な工夫がなされていることを評価します。 ・働き方改革実施には、「17時を過ぎて働かなければいけないこと」はやらないという強い決意が必要では、この園は研究機関であり子どもたちの保育自体が研究を中心に行われていることをしっかりと保護者に理解してもらい、子どもたちがよりよい環境で過ごすためにも保護者の協力が不可欠なことも、そしてその活動が保護者同士のつながりとなることもしっかりと伝えていきたい。	B	これまで時間が多くとられていた行事に關わって業務が多くなったので、行事そのものの必要性を再検討し、それに関わる準備の業務をできるだけ少なくしていく。本園は研究機関であり子どもたちの保育自体が研究を中心に行われていることをしっかりと保護者に理解してもらい、子どもたちがよりよい環境で過ごすためにも保護者の協力が不可欠なことも、そしてその活動が保護者同士のつながりとなることもしっかりと伝えていきたい。
			幼稚園教員としての資質の向上を図るとともに保育者の人的ネットワークづくりに努める。行政との関係を強める。	(指標) ①ひがし広島幼児保育研究会の研修の運営、参加 ②広島県教育委員会乳幼児教育支援センターとの連携 ③東広島市こども未来部保育課との連携 県市町開催の研修への参加数の増加。 研修の学びを内部に公表する。	ひがし広島幼研の研修を幼稚園教員全員で運営した。また、乳幼児教育支援センター主催の小学校教員を対象にした研修に5回参加した(参加者331人)、それに向けての打合せも入念に行った。東広島市こども未来部保育課とは現在も環境作りについて連携しながら進めている。研修の学びを内部に伝えることについて前半は実施できたが、後半はできなかった。研修の学びの伝え方を考えていく。	B	本園と、広島県及び東広島市との連携がとても良いです。研修等に参加することによって、本園の保育者が色々なことを学ぶだけでなく、研修会自体にも園として貢献していることを評価します。	B	本園と、広島県及び東広島市との連携を強化していく。それをもとにさらに研修等に参加することによって、本園の保育者がさまざまな学ぶ機会を経験し、さらには研究会研修会を企画できるようにしていきたい。
(学校経営・安全管理等)	(学校運営・改善事業)	【基盤整備】	保育活動が安全でかつ効果的に実践できるよう、必要な施設や環境の整備に努める。	(指標) ・職員によるのアスレチック遊具等の充実と点検、整備 ・園舎内の安全環境整備の確認 ・大学による芝生化計画 ・学生ボランティアの採用 ・保護者による園庭整備 (判断基準) 各活動が計画的に実施されたかどうか	環境整備作業は、第3回はコロナで中止になったが、1・2回目は予定通り実施できた。安全な環境を保つため、日々の保育中にも遊具の確認などを行っている。引き続き安全な環境整備を意識していく。	A	・本園の特徴である自然環境は素晴らしいですが、その反面、土砂災害等の心配もあります。引き続き、環境整備に取り組んでください。 ・学生のボランティア活動がいろいろ。 ・芝生化に伴う農薬等の使用を懸念します。子どもたちの環境であることを第1に。 ・駐車場や奥の溝など先生方が普段目にされないところの清掃は、今後少し気をつけて見ていただけると幸いです。	A	保護者との確実な連携によって、引き続き施設や環境の整備に取り組んでいく。木いちごの会(保護者会)との協力体制を維持していく。
			入園調査事業	【入園調査の適正化】	(指標) 本園の目標に沿った園児入園のために入園調査の課題の検討を行う (判断基準) 改善点等の点検、確認が適切であったかどうか。	これまでの反省点や改善点をもとに8月から準備を初め、11月に入園調査を行った。調査後、今年度の反省点や改善点などの記録を綿密にとった。次年度以降に生かしていく。	A	入園調査に対して早めの準備に取り組まれたことを評価します。入園を希望する子どもたちに対して、入園調査の際に、不安感や緊張感をできるだけ避けることができるといった創意工夫をお願いします。	A
その他	入園調査事業	【入園調査の適正化】	より適切な入園調査が可能になるよう現行の入園調査における課題を検討する。	(指標) 本園の目標に沿った園児入園のために入園調査の課題の検討を行う (判断基準) 改善点等の点検、確認が適切であったかどうか。	これまでの反省点や改善点をもとに8月から準備を初め、11月に入園調査を行った。調査後、今年度の反省点や改善点などの記録を綿密にとった。次年度以降に生かしていく。	A	入園調査に対して早めの準備に取り組まれたことを評価します。入園を希望する子どもたちに対して、入園調査の際に、不安感や緊張感をできるだけ避けることができるといった創意工夫をお願いします。	A	少人数で質の高い保育を実現している園の独自性や存在意義をさらに強調するようにHPなどを有効活用していく。さらにリーフレットや要覧なども用意し関係学会や各関係団体、公共の場で配布できるようにする。

注) □ 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。